県教育支援センターの取組

本年度設置された県教育支援センターでは、不登校児童生徒に対する支援の総合的な推進を図るため、以下の３事業を展開しています。

①メタバース（仮想空間）上の学びの場（通称：「メタサポキャンパス」）の開設による支援
②学校や関係機関への訪問によるアウトリーチ型支援
③不登校の未然防止に向けた「魅力ある学校づくり研修会」

そのうち、メタサポキャンパスにおける支援については、県内全ての小・中学校の不登校児童生徒を対象に、令和５年７月に開設しました。令和６年１月末現在32名が利用しています。児童生徒が、「アバター」を介して他者との交流やつながりをつくり、安心して活動できるような居場所の充実に努めています。

遠隔授業配信センターの紹介

県教育委員会では、小規模校等における教科指導等の更なる充実を図るため、令和８年度に遠隔授業配信センター（仮称）を設置することとしており、その体制づくりとして、総合教育センターに専任教員を配置し、遠隔教育の充実に向けた研究を進めています。

本年度は、他県の先進的な取組を視察して情報収集を行い、９月から協力校８校を対象に数学・理科（物理）・情報の遠隔授業を実施しています。その際、電子黒板や１人１台端末を用いた双方向性の高い授業の実施方法についても研究しています。

遠隔授業の実施により、学校規模に関わらず、生徒の多様な未来につながる学びの実現を目指します。

幼児教育アドバイザーについて

令和５年度から、幼児教育センターに幼児教育アドバイザー３名が配置されました。幼児教育アドバイザーは、県内の幼児教育施設（設置主体、施設類型を問わない）を訪問し、指導助言を行います。県内全ての幼児教育施設における教育の質の向上を図るため、関係部局と連携しながら取組の充実に努めています。

令和６年度研修講座の紹介

【基礎研修】

基礎研修は、教職員のキャリアステージに応じて、初任者及び新規採用教員研修、フォローアップ研修、中堅教諭等資質向上研修としてキャリアアップ研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを悉皆（しっかい）で実施します。

【専門研修】

専門研修は、悉皆（しっかい）や指名研修で、７講座を実施する予定です。一部の研修で、オンラインを活用した研修を実施します。

【課題別研修】

課題別研修は、新規４講座を含め、73講座の開設を予定しており、県内全ての学校（園）の教職員が受講できます。そのうち16講座はオンライン研修を実施します。申込みは2回行い、１回目の申込みは、小・中学校は５月中旬、県立学校は６月上旬を予定しています。１回目で通年の受講申込みが可能です。１回目の申込みで定員となった講座は、原則２回目の募集は行いません。定員を満たした講座及び募集可能な講座については、研修管理システムのお知らせで周知する予定です。２回目の申込みは、７月下旬から行い、10月以降の研修講座の募集を行います。

【出前講座】

出前講座は、総合教育センターの所員が、対面やオンラインで、校内研修や教科等研究委員会、市町教育委員会が主催する研修等を支援しています。令和６年度は、新規講座２講座を含め、48講座を開設予定です。

【放課後ミニ研修】（新設）

令和6年度から学校や幼稚園等の教職員と総合教育センターの所員とをオンラインでつなぎ、放課後の短い時間で研修を実施する「放課後ミニ研修」を新設します。先生方の研修や交流の機会を確保し、資質能力の向上を図ることを目的としています。研修時間は30分～1時間程度で、一方的な情報提供ではなく、双方向性を意識した研修にしたいと考えています。お気軽に御参加いただければと思います。詳細については、3月下旬にホームページに掲載予定の「令和6年度研修のしおり」を御覧ください。

総合教育センターホームページのURL
https://center.esnet.ed.jp/

交通安全推進メールマガジンの配信について

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指し、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。

育心拓夢

愛媛県総合教育センター所報　No.170
（令和６年３月11日発行）
https://www.center.esnet.ed.jp/
〒791-1136　愛媛県松山市上野町甲650番地
TEL　089-963-3111(代)　FAX　089-963-3146

○教育開発部長挨拶 ……1
○令和５年度調査・研究発表会について ……1
○令和５年度調査・研究の概要 ……2・3
○県教育支援センターの取組 ……4
○遠隔授業配信センターの紹介 ……4
○幼児教育アドバイザーについて ……4
○令和６年度研修講座の紹介 ……4

子どもと教師のウェルビーイングにつながる研修

教育開発部長　渡部　和寛

「令和の日本型学校教育」を担う教師の新たな学びの実現を目指し、研修観の転換、子どもたちのロールモデルとなる教師の姿が求められています。本年度総合教育センターでは、指導主事自身が、研修を通じて自分の学びや研修の在り方を問い直しました。その中で、学校や教師の使命と学びの関係についても見つめ直しました。

学校には、それぞれに教育目標や使命がありますが、子どもたち一人一人の現在と将来の幸せを実現するという点において、その目指すところは変わりません。愛媛県は、「愛顔あふれる『教育立県えひめ』の実現」を目指し、令和５年３月「愛媛県教育振興に関する大綱」（令和５～８年度）として７つの振興方針を示しました。その２つ目「夢の実現に資する魅力あふれる学校づくり」は、子どもたちが将来の夢を育みたいと思う学校こそ、我々が目指す姿であることを示しています。そして、学校づくりは、教師の学びからスタートします。教職員一人一人の力を引き出し、組織力やチーム力を高める校内研修等の充実が重要です。

教師には、学校の教育目標を具現化するとともに、自身の教師としての資質能力を高めていく使命があります。「令和の日本型学校教育」を担う教師の姿においても、変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶ主体的な姿勢が必要であるとされています。本来教師の学びは、職務上の責任に縛られてのみ進めるものではありません。専門分野の探究や発見の感動、自分が成長する喜び、子どもたちの笑顔を実現する幸せ、仲間意識や同僚性の向上など、教師として生きる喜びや誇りと結び付いたものです。教師の学びは、人生のウェルビーイングにつながっていると受け止めることが大切だと思います。

総合教育センターには、こうした学校や教師の使命、学ぶ喜びに寄与する研修や研究が求められていると考えています。参加者が元気になる研修、また来たくなるセンターを目指して一層のブラッシュアップに努めるとともに、誰でも気軽にオンラインで参加できる放課後ミニ研修や、大学と連携した研修動画の提供、主体的な学びを支援する受講奨励の資料提供等、新たな展開も準備しています。これらにより、子どもと教師のウェルビーイングを、皆さんと一緒に目指すセンターとして、これからも歩んでいきます。

令和５年度調査・研究発表会について

本年度の調査・研究発表会を、２月16日に開催しました。集合とライブ配信を合わせたハイブリット形式で、200名を超える教育関係者の皆様に御参加いただきました。

研究主題「未来を切り拓く力を育む学校教育への総合的な支援」の下、情報教育室、教科教育室、特別支援教育室及び長期研修生（2名）による５本の発表を行いました。各発表に対して参加者からの熱心な質問が相次ぎ、充実した時間となりました。

講演は、木村泰子先生を講師に招き、「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる－「みんなの学校」が教えてくれたこと－」と題し、大阪市立大空小学校で初代校長を務められた御経験を基に、子ども同士が学び合う教育について、参加者との対話を大切にしながら話していただきました。社会のニーズが激変し、不登校やいじめが増え続ける昨今、誰一人取り残さない教育を行うために、教師に求められる力とは何か、これまでの当たり前を問い直す貴重な時間となりました。

参加者からは、「学校がすべての子どもにとって安心できる場所でありたい。」「参加者との対話を大切にした講演は、ライブ感があってよかった。」などの感想が寄せられました。

企画開発室

個別最適な学びの実現を図る遠隔授業の在り方

急速に進むデジタル化や生成ＡＩの登場、Society5.0時代の到来など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化する中で、ＩＣＴを利用して空間的・時間的制約を緩和することにより、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、教育の質の向上を図ることが求められています。そこで、県立学校の小規模校を対象に、個別最適な学びを実現するための遠隔授業における指導方法の研究を行うこととしました。本センターに配置された専任教員が、令和５年９月から協力学校８校を対象に遠隔授業を試行しています。本研究では、２か年継続の１年目として、生徒の多様な学びの実現につなげることを目的に取り組んでいます。

遠隔授業を受けた生徒は、１人１台端末を使って演習に取り組んだり、電子黒板に自分の意見を書き込み配信側の教員と意見交換をしたりするなど、主体的に授業に参加する様子が見受けられました。今後は、教科指導の更なる充実のために、配信側の教員と受信側の教員との連携等についても研究を深めていきたいと考えています。

情報教育室

自己教育力を育むための１人１台端末活用に関する研究ー「インターネット活用スキル」の向上を図る授業実践を通してー

予測困難なこれからの社会を生き抜くための学力・行動力を身に付けさせるには、ＩＣＴ活用スキルを基にして、自己教育力や協働力を育むことが重要であるとされています。そこで、子どもが主体的に学習を進める上で必要な「インターネット活用スキル」に着目し、その向上を図る授業実践を通して、自己教育力を育むための１人１台端末の活用について研究しました。

授業実践から、自己教育力の一つである「何を、どのように学ぶのか」といった学び方を身に付けさせるには、子どもの学習に対するモチベーションを高め、自身の学びを振り返る場を持つことが大切であると改めて確認できました。そして、インターネットを用いて自分で情報を収集する、情報を他者とリアルタイムで共有する、共同編集機能を用いて資料作成や振り返りを行うといった、１人１台端末の活用が、子ども自身で学びを進める助けになることを確認しました。

教科教育室

子どもの思考を深めるための授業づくりー効果的なＩＣＴ活用を通してー

効果的な場面でＩＣＴを活用し、分かりやすい授業を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」が実現され、教科の学びが深まると考え、２か年継続の研究に取り組むこととしました。

２年次の本年度は、１年次に作成したＩＣＴ活用に関する自己研修用動画を、出前講座として希望する学校へ提供し、活用後のアンケートの分析により、その有用性を確認しました。

また、伊予市立伊予小学校と伊予市立港南中学校に共同研究を依頼し、子どもの思考を深め、教科目標をよりよく達成するための授業づくりについて、実践研究を行いました。これまでの指導とＩＣＴを活用した指導のベストミックスにより、子どもの学習意欲の向上や思考の深化が促されることを確認しました。

本研究の成果は、研修動画の新規作成や基礎研修の講座等で活用し、各学校における授業改善の推進を支援していきたいと思います。

教育相談室

不登校生徒の支援に関する研究ーメタバースを活用した実践を通してー

現在、不登校児童生徒への支援は、生徒指導上の喫緊の課題の一つとなっています。本センターでは、令和５年度から、不登校児童生徒が、他者とのつながりや学習の機会を持ち、社会的自立に向かうことを意図して、インターネット上の仮想空間であるメタバースを活用した支援に取り組んでいます。メタバースを活用した支援は、児童生徒が気軽に参加することが可能で、学び等にアクセスしやすいという利点があります。本研究では、こうした利点のあるメタバースを活用した支援について、利用者数の多い中学生を中心に、２か年継続の１年目として、支援の在り方を探りました。

メタバースを活用した支援を利用した生徒は、他者とのコミュニケーションを楽しんだり、学習に主体的に取り組んだりするなど、他者や学習とつながりを持とうとする様子が見受けられました。今後は、更に支援を充実させるため、支援方法や支援内容について、研究を深めていきたいと考えています。

令和５年度 愛媛県総合教育センター調査・研究の概要

〔研究主題〕　未来を創造する力を育む学校教育への総合的な支援

特別支援教育室

生活単元学習の授業づくりに関する研究ー各教科等とのつながりのある単元設定から学習評価までの考え方ー

特別支援学校学習指導要領解説では、「各教科等を合わせた指導」においても、各教科等の目標や内容を取り扱うことや、それに準拠する評価を目指すとの方針が示されました。そこで、生活単元学習における各教科等とのつながりや学習評価の在り方に関する資料を作成し提供することで、特別支援学級等での授業づくりを支援することができると考え、２か年継続の研究に取り組んできました。

昨年度は、研究員の協力を得て、資料「「主体的・対話的で深い学び」を実現する生活単元学習の授業づくりガイドブック」の案を作成しました。

本年度は、研究員による「ガイドブック（案）」に沿った授業実践を行い、その後、研究員への意見聴取を経て「ガイドブック（案）」の改善を行うとともに、より分かりやすく使いやすい資料となるよう、解説動画を作成しました。今後は、本研究の成果をまとめて「ガイドブック」を完成させ、本センターのホームページに掲載するとともに、次年度以降の各種研修に生かしていきたいと考えています。

長期研修講座受講者

教員の同僚性を高める協働的な取組の在り方ー道徳教育における若手教員への支援を通してー

濱本　沙和佳

学校が抱える問題は複雑化・多様化しており、組織で対応する必要性が高まっています。そこで、学年部における教員の同僚性を高めることを目的として、全ての教員が関わる道徳教育に着目し、「リレー道徳」を柱とした授業実践等を通して、協働的な取組の在り方について研究しました。

その結果、若手教員が抱えている課題の解決に、「ビジョンの共有」「情報交換の場の設定」「教員同士が積極的に関わろうとする姿勢」を意識しながら組織的に取り組むことで、学年部の同僚性が向上しました。また、組織内の連携を深めるためには、日常的な対話の積み重ねが必要不可欠であり、教員一人一人が教員同士、学年部同士の「つなぎ役」になり得ることを自覚して関わることが必要だと感じました。

長期研修講座受講者

生徒のコミュニケーション能力を高めるための自立活動の取組ーソーシャルスキルトレーニングにおける問答ゲームの効果検証を通してー

宮内　　伶

中学校特別支援学級担任として、生徒が他者と円滑な関わりを持てるようになることを大切にしたいと感じていました。そこで、聞き方、考え方、話し方といった言語技術を高めることが、生徒のコミュニケーション能力を高めることに効果的であるかどうかを検証することとしました。方法として、対面及びＩＣＴを活用した問答ゲームや、具体的な場面を設定したソーシャルスキルトレーニングを行いました。

その結果、問答ゲームを繰り返し行うことで、生徒は考えを分かりやすく相手に伝えるようになりました。また、言語技術の高まりにより、ソーシャルスキルトレーニングでは、相手を思いやる言動をとるようになり、日常生活における態度や言葉遣いに良い変化が見られました。

本センター研究の成果について

本センターの研究成果物はホームページからダウンロードすることができます。
ぜひ、御活用ください。　アドレス　https://center.esnet.ed.jp/

短期研修講座受講者

銅鏡の最適な生成条件について

新居浜東高等学校　　白石　千明

フェーリング液を用いた物質の還元性を検出する実験後、まれに銅の単体(銅鏡)が見られることがありましたが、先行研究で意図的に銅鏡を生成する方法を示したものはありませんでした。本研究では、還元剤にホルマリンを用いて、銅鏡が生成する最適な条件を見出すことを目的とし、フェーリング液の調製方法、ホルマリンの添加量や反応温度等について検討しました。そして、どの高校においても実践できる再現性の高い実験方法を確立しました。

「micro：bit」を計測機器として活用した物理実験

今治南高等学校　　安野　博之

micro:bitは、センサリングとプログラムによる命令実行ができる手のひらサイズのマイコンです。本研究では、内臓センサや外部センサを用いて力学分野の複数の実験を行い、micro:bitの実験計測機器としての可能性を探りました。結果、データのサンプリングが可能となり、物理法則や現象を検証することができました。授業で活用できる有効な機器であることが確認できましたが、サンプリング時間に補正が必要であることなど課題も得られました。

地域の自然をいかした教材の開発ー生徒の環境保全に対する意識の向上を目指してー

松山中央高等学校　　山家　美穂

絶滅危惧種ミナミメダカの分布調査を松山平野で実施し、人為移入されたと推定される飼育品種を多数確認しました。採集したミナミメダカの遺伝的解析の結果から、松山平野のミナミメダカ自然集団において、飼育品種の人為移入による遺伝的かく乱が生じていることが確認されました。ミナミメダカの生息環境や地域固有性を維持するための方策を考える環境教育を実践し、身近な環境保全に寄与する態度の育成へとつなげていきたいです。